

2023年6月7日(水)

## 言葉のない世界 ～パントマイムに学ぶ～

東京オリンピック 2021 の開会式で競技種目を紹介するピクトグラムの演技で話題になったパントマイムパーフォーマー「が～まるちょば」のライブが、コロナ禍による封印を乗り越えて3年ぶりに戻ってきました。6月3日(土)のよみうり大手町ホールを皮切りに“シネマティック・コメディ JAPAN TOUR 2023”と題した講演が、全国7か所で開催されています。ただ、相方ケッチと二人の活動は現在休止中で、HIRO-PON 一人によるショートパフォーマンスと長編の新作が見所です。

「が～まるちょば」の演技と言えば、すぐに動かそうとしても動かない靴や見えない壁、綱を使わない綱引きなど言葉を使わない演技を思い浮かべますが、彼がめざすパフォーマンスはこれに留まりません。確かに冒頭30分の「ツカミ」は観客を巻き込んでの笑いの渦で、心をしっかり掴み一気に本編のステージに引き込ませます。

公演直前の5月12日(金)に、テレビ朝日『徹子の部屋』に出演した HIRO-PON によれば、25歳の時にアルバイト先で突如としてパフォーマンスをやろうと決意し、すぐに師匠に弟子入り。幾多の修行を重ね1999年に二人で「が～まるちょば」のデビューにこぎ着けたということです。その後、35か国に渡る数々の海外公演で腕を磨き、評価を得た後に日本に凱旋し、今に至るのだそうです。

今回の公演でも、言葉(セリフ)がないだけに動きだけで見ている人の心を笑いや感動に導く奥深い演技が光ります。「百人がいたら百通りの見え方」があり、コロナ禍ですさんだ人の「心に届く薬」と、パントマイムの別の効用も説いています。

教員という仕事は「言葉が武器」とも言えますが、言葉のない演技はそれ以上に表現するもののスケールと奥行きを深さを教えてくれ、感動を与えてくれました。6月24日(土)には、町田市民ホールでも公演があります。

\*芸名の「が～まるちょば」とはジョージア語で გამარჯობა と表記し、「こんにちは」という意味。私も15年前に1年間だけジョージア語を習ったことがあります。東京外国語大学 OBOG の方々と現地を訪ねたことがあります。2行上の文字の通り、とてもかわいい文字です。

校長 石飛 一吉